

医療介護関係者の理解促進・スキル向上のあり方について

前回の作業部会における主な意見

1. 医療介護関係者の取組の現状について

- 外部講師を招いて、多職種を対象に研修会を実施予定。
- 事業所内で、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインの研修を実施。
- 病院主催の研修の御案内をいただく機会は多く、ケアマネジャーもそこで学んでいることが多い。
- 病棟看護師は、ACPが何かを知ることが目標として、一回は研修を受けることとしている。
- 各自研修を受けるところから始めている。
- 訪問看護では、日々の利用者への関わりを通じて、職場内のスタッフ間で学んでいる。
- 在宅ケアチーム間の情報共有に重きを置き、ACPのタイミングを逃さないようにしている。

2. 医療介護関係者の取組のあり方について

- どの職種でも、一度は自分ごととして考える機会を持つことが大切。医療介護関係者自身が、もしバナゲームを使った研修を受けることも一つか。
- 医師とその他の医療介護関係者とでは、ACPに取り組むタイミング等の考え方に少し違いがあるのではないか。そのため、個々の勉強だけではなく、ACPを医師、看護師、ケアマネジャー、ヘルパー等の多職種で学んでいくような研修会（多職種連携研修会等）が必要ではないか。
- 退院前カンファレンスで、本人や家族、在宅スタッフからACPの内容を聞かれると、意識を持ち始めるのではないか。

3. その他

- 救急搬送されてきた患者で、ACPをしておらず、医療方針の決定に苦慮するのは、その患者に対応する急性期病院の医師なので、ACPの必要性を一番感じているのは、急性期病院の医師ではないか。